奈良医大 キャンパスだより

Nara Medical University newsletter

2018 vol.8 秋号

奈良県立医科大学に関する様々な情報を、地域のみなさまにお届けします

写真提供：橿原市

写真提供：橿原考古学研究所

Topics

・医大・周辺まちづくりの検討状況について
・ＭＢＴ(医学を基礎とするまちづくり)の取り組み①
・国内外に開かれた大学を目指して
・脳卒中センターの稼働について
・障害者雇用の取り組みについて

イベントなどのお知らせ

・大学祭(白橿生祭)

奈良県立医科大学
Nara Medical University

医大・周辺まちづくりの検討状況について

医大・周辺まちづくりとは

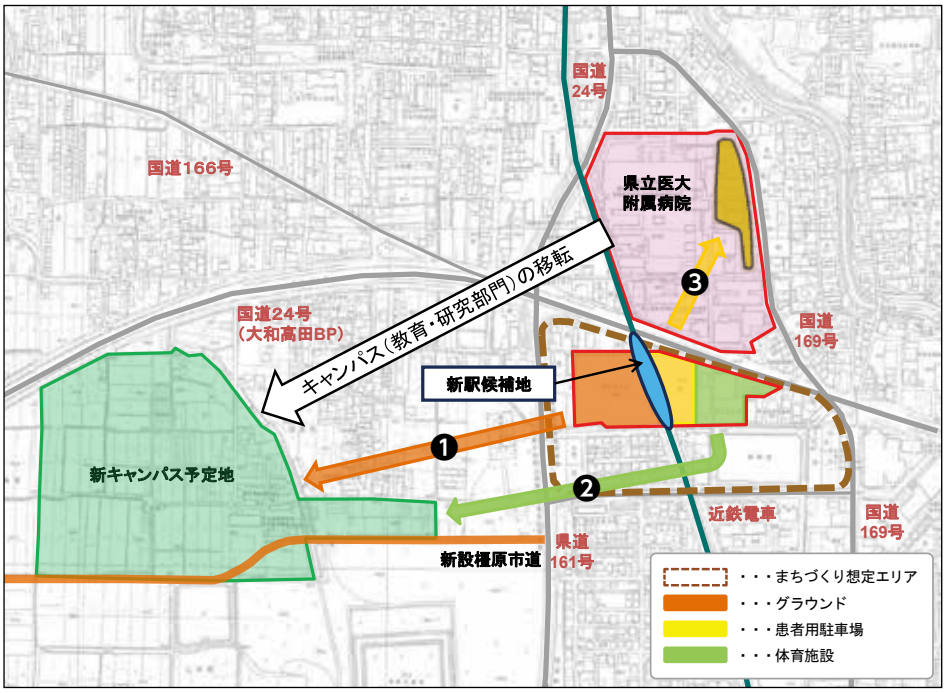
奈良県と橿原市は、平成27年3月20日に大和八木駅周辺地区・医大周辺地区・橿原神宮前駅周辺地区において、協働で「まちづくり」に向けた検討や取り組みを進めていくために「まちづくりに関する包括協定」を締結されました。その中の医大周辺地区のまちづくりについて紹介します。

県と橿原市は、医大周辺地区のまちづくりとして、医大および附属病院を核とする「橿原キャンパスタウン」の形成に向け協議を重ねているところです。特に、県中南部における高度医療の拠点である医大附属病院の隣接地域という利点を活かし、医大附属病院への便利で快適なアクセスの確保を目指すため、医大敷地内の駐車場・グラウンドの移転により生じた跡地及びその周辺のエリアにおいて「新駅設置と医大隣接の利点を活かした医療の充実した賑わいのある健康長寿のまちづくり」をコンセプトとして検討しています。

奈良県立医科大学でも、教育・研究部門を移転することに伴う新キャンパスの整備や、附属病院の老朽・狭隘化を解消するための再整備を進めるとともにこの医大・周辺地区のまちづくりについて協働で検討しているところです。

【整備コンセプト】
新駅設置と医大隣接の利点を活かした医療の充実した
賑わいのある健康長寿のまちづくり

医大・周辺まちづくりプロジェクト概要図



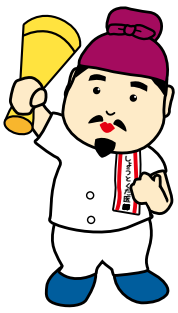
（出典：橿原市白地図画像データを加工）

【整備手順】
❶ グラウンドを新キャンパスに移転
❷ 体育施設を新キャンパスに移転
❸ 患者用駐車場を現キャンパスの教育施設跡地に移転
順次、新駅を中心にまちづくり整備を進めていく
（※新駅は、県・橿原市・近鉄の３者で設置に向け協議中）

奈良県予算公表資料「平成 30 年度予算案の要点」より抜粋

今年度の取り組み

今年度は、広く市民の皆さんのご意見やアイデアをお聞きするため、橿原市が主体となり「医大附属病院周辺地区　市民ワークショップ」を４回開催し、ワークショップでの意見等を反映させたまちづくり基本構想を県と市が協働で作成する予定とされており、また、新駅の整備に関



しょうとくた医師くん

しても、奈良県・橿原市・近鉄との3者で協議を重ねられているところです。

また、新キャンパスへのアクセス道路については、橿原市が、防災道路としての機能強化や、大和高田バイパスの降り口である四条町交差点や小房交差点の渋滞緩和を目的に、道路の幅員が12m、そのうち片側5mの自転車歩行者道を整備するため道路新設改良工事に着手しており、第一期工事区間として県道161号（橿原神宮参道）から新キャンパスまでの間を、平成31年度末に完了する予定です。

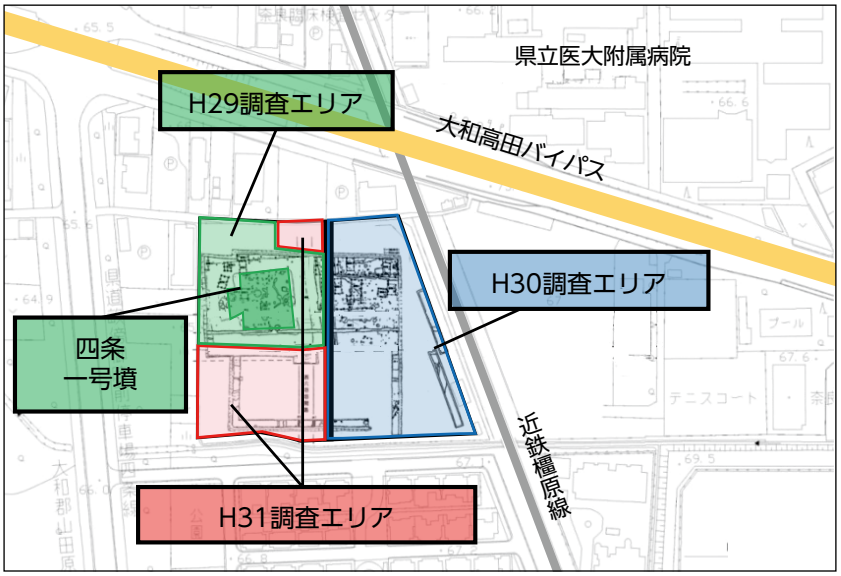
現グラウンドの発掘調査

医大・周辺のまちづくりを進めるにあたり、まず大和高田バイパス南側にある現キャンパスのグラウンドの発掘調査を平成29年度から3年間かけて行っており、初年度はその北西部3、400㎡について発掘調査を完了いたしました。

平成29年11月23日には現地説明会が開催され、約400人がお越しになり、発掘された現場を橿原考古学研究所の発掘担当者の説明を聞きながら見学されました。

引き続き、平成30年度は東側半分を発掘し、平成31年度は南西部を発掘し、グラウンド全体の発掘調査を完了する予定です。

医大グラウンドの文化財発掘調査のスケジュール



四条一号墳全景

写真提供：橿原考古学研究所

遺構検出作業

写真提供：橿原考古学研究所

MBT（医学を基礎とするまちづくり）の取り組み①

本学では、特色ある取り組みとして、医学を基礎とするまちづくりであるMBT（Medicine－Based Town）を展開しています。これは、医師や看護師等の持つ様々な医学的知識を、産業やまちづくりへ活用するものです。医学的な知識は患者さんの治療に活かすことはもちろんですが、医学的に正しい製品や住まいにも応用することができます。さらに、これらが有機的に集まることで、私たちの生活基盤となるまちづくりにつなげることもできます。この取り組みは、MBTを通じて、医学に基づいた社会貢献を目指すのがねらいです。

FUN+WALK PROJECTトライアルの様子

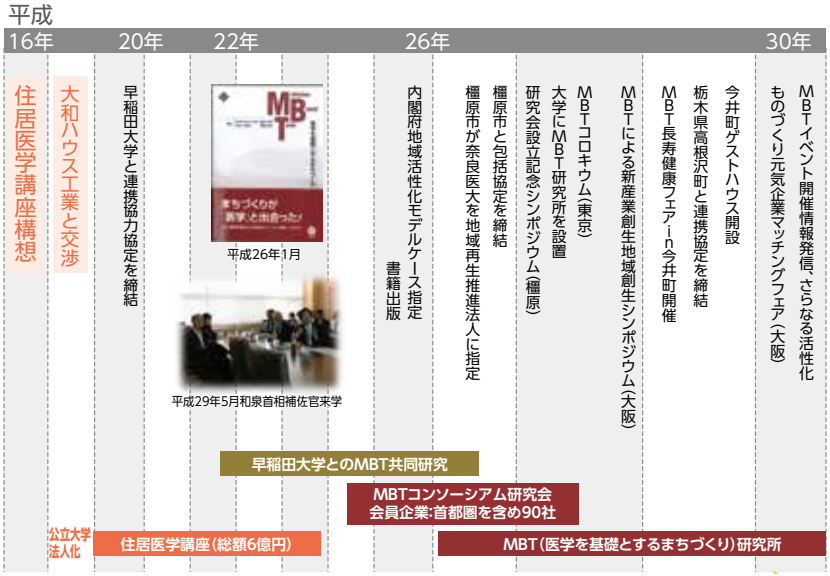
MBTは、既に15年にわたる歴史があります。本学では、2006年に大和ハウス工業株式会社による寄附講座として、住居医学講座を開設しましたが、これは、2004年から細井学長が構想を築いてきた住居医学の研究を具体化したもので、MBTの源流となります。住居医学とは、住居を改善することにより、病気を予防し、健康を維持することを学問的に解明するものです。

MBTの基本には、健康寿命という考えがあります。健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことで、ストレッチ・適度な運動・社会参加などが重要と考えられています。健康寿命を延ばすようなまちづくり実現のためには、大学、企業、行政、住民等を含めて、いろいろな方々とともに取り組んでいく必要があります。

MBTの具体的な取り組みとして、平成29年10月29日に、「MBT健康長寿フェア　in 今井町2017」を開催しました。当日は、あいにくの空模様となりましたが、そんな中でも、多くの住民の方に足を運んでいただき、先頃オープンした今井町ゲストハウスの中で、メタボ・毛細血管チェックや医師による健康・医療相談等を行いました。

また、平成29年12月6日には、今井町でスポーツ庁が推進する「FUN+WALK PROJECT」のトライアルも行いました。このプロジェクトは、日常生活の「歩く」を促進し、健康増進を図る取り組みです。当日は、細井学長と関係者がともに実際に歩くことで、MBTと健康増進のデモンストレーションとなりました。

今後も、いろいろな活動を通じて地域との交流を深めていくとともに、MBTの取り組みを実現していきたいと考えています。



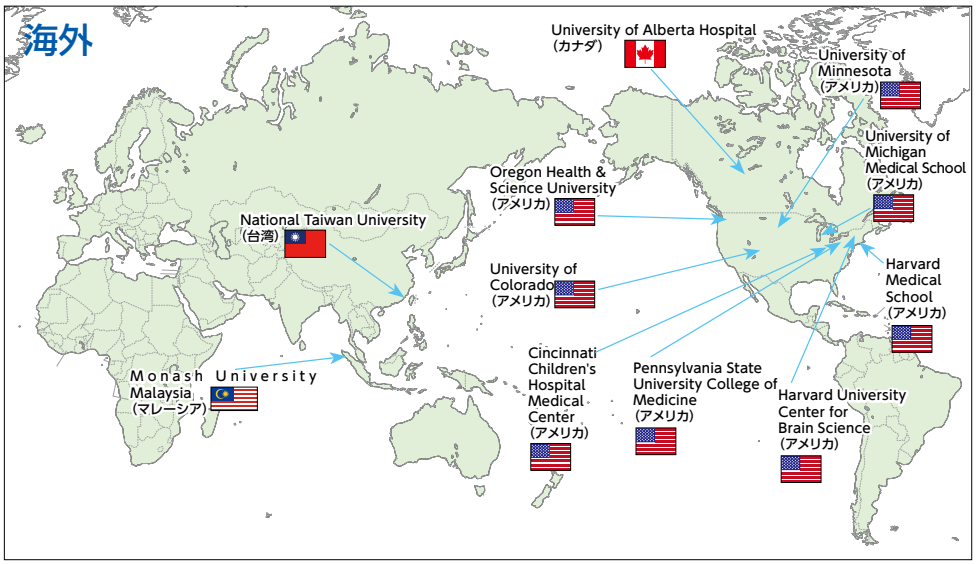
MBTの15年間のあゆみ

国内外に開かれた大学を目指して

本学医学科では、第２学年を対象に、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験化学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解してリサーチマインドを培うことを目的とした「リサーチ・クラークシップ」の授業（研究室配属実習）を行っています。

本学内の研究室のみならず、学外（国内・海外）研究室配属実習を推進し、国内外に開かれた学生の育成に努めています。

学外（海外･国内）10週研究室配属実習を強力に推進（2017年2年次学生派遣実績）



国内

- 岩手医科大学薬学部
- 理化学研究所 脳科学総合研究センター
- 国立感染症研究所免疫部
- 早稲田大学先進理工学部
- 金沢大学医薬保健学総合研究科
- 同志社女子大学薬学部
- 京都大学大学院 医学研究科・医学部
- 国立循環器病研究センター
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 奈良女子大学大学院 人間文化研究科
- 熊本大学発生医学研究所

留学体験記

医学科3年　三好 真緒さん
University of Michigan Medical School

アメリカの文化や雰囲気を体感することができ、医療研究現場においてもセミナー時に毎回質疑応答が時間一杯になるまで続けられており、聞き手が積極的に話し手のプレゼンを聞いていることが伝わってきました。最初はついていくことに苦労しましたが、日々の研究を通して医学への向き合い方を理解することができました。英語を話せることの重要性を再認識しましたし、海外に行ったからこそ学べたこと、経験できたことがたくさんありました。私はこのリサーチクラークシップを通して、基礎研究の楽しさを感じ、興味を持つようになりました。本当に貴重な経験をさせて頂いたと思います。今回の留学を助成して下さった『未来への飛躍基金』には感謝してもしきれません。今回の留学で得た研究に対する姿勢、海外への興味をこれからも維持して、将来に繋げたいと思います。

医学科3年　相馬 有輝さん
Cincinnati Children's Hospital Medical center

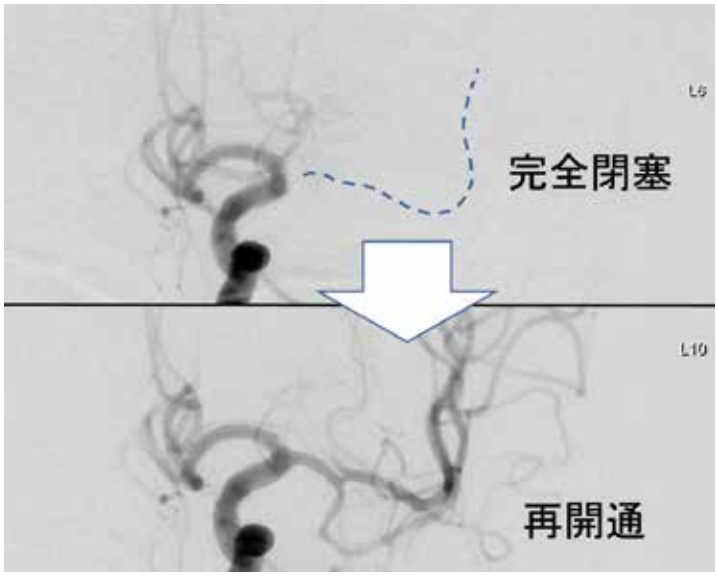
私は、アメリカに研究室配属で２か月半留学させていただきました。日本語を理解してくれる人がほとんどいない、中国、インド、イタリアなど様々な訛りの英語に包まれながら研究を学びました。自分自身、研究はほぼ素人で異国の地で右も左も分かりませんでしたが、暖かく、時に厳しく教えていただきました。その結果、研究に興味を持つきっかけになり、帰国後も続けています。研究も学べますが、私は、アメリカで様々な人に出会えたことにも大きな魅力を感じました。現地で働く日本人の医師や薬剤師の方とお話しすることは大きな刺激になり、将来医師になる身として帰国後の過ごし方が大きく変わりました。ホステルで料理をしながらインド人や中国人と喋ると、それぞれの国の医療事情がリアルに感じられました。研究室配属は人生できっとかけがえのないものになるので、ぜひ皆さんに行ってもらいたいと思います。最後に、この貴重な経験を与えてくださった大学と寄付してくださった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

脳卒中センターの稼働について

現在、脳卒中は出来るだけ早く治療をすれば後遺症をかなり軽減できる時代になっています。今後増加する見込みの脳卒中に対応するため、県内特に中南和地区の基幹病院として平成29年10月に奈良県立医科大学附属病院内に脳卒中センターを開設し、約1年が経過しました。脳卒中センターを設立することにより、いままで各診療科で個別に対応していたものを、診療科の枠を超えた各科の専門医と関連部門が一体となった「脳卒中診療チーム」を形成し、集学的な診療体制の確立、脳卒中医療の集約化と標準化、及び、脳卒中教育システムの構築を行うことで、効果的で良質な医療サービスを皆様に提供します。脳梗塞の特効薬と言われる血栓溶解療法（ｔＰＡ）は4、5時間以内でないと使用出来ません。また、カテーテルで血栓を取り除いて血管を再開通させる血栓回収療法も発症から早ければ早い程後遺症が少なく回復が早いことが証明されています。そこで、脳卒中センターでは早期治療のため、医科大学附属病院として多くの診療科・中央部門を網羅するという特性を活かし、早期治療のための様々な取り組みを行っています。例を挙げますと、ドクターヘリを擁する高度救命センターと連携することによって、速やかな脳卒中患者の受け入れと初期対応が可能になっています。また、脳梗塞の診断と急性期脳卒中の適格な診断の為には、ＭＲＩや造影ＣＴ検査を24時間いつでも迅速に行える態勢が構築されています。また、重症の脳梗塞や脳内出血では緊急手術が必要な場合があり、年間２００件を超える緊急手術を行っています。さらに、破裂脳動脈瘤などによるくも膜下出血は近年、外科手術と血管内カテーテル手術を組み合わせて行われるようになり、救命率が向上し後遺症率が低下しています。Ｅ棟手術室に平成28年から稼働しているハイブリッド手術室では、難易度の高い動脈瘤、脳動静脈奇形などのカテーテル治療や外科手術に完全対応しています。

脳卒中は急性期治療だけでなく、後遺症を軽減するためのリハビリテーション、その後の再発予防が極めて重要です。毎週行われる脳卒中カンファレンスでは、看護師、理学療法士を含めたスタッフが参加して、現行治療の検証を行い、再発予防のための治療方針を検討することにしています。今後は、脳卒中治療の中心として、データ蓄積を推進し奈良県の地域医療にもっとも適した脳卒中医療態勢の構築を整備していきます。

血栓回収療法による治療例



開頭手術と血管内手術が同時に行えるハイブリッド室

障害者雇用の取り組みについて

本学では障害者雇用を積極的に進めています。法人企画部人事課に障害者雇用推進係を設け、障害者雇用推進マネージャーや支援員を配置し、障害を持つ方の就労をサポートしています。

本学の障害者雇用率は平成30年度2.9％で、4年連続で法定雇用率をクリアしています。このことは、民間企業の障害者雇用率2年連続全国1位の奈良県の障害者雇用施策に大きく貢献しているものとなっています。

障害者雇用に取り組んだ平成26年3月当初は5人の採用からスタートしましたが、現在は32人の障害者が附属病院で働いています。当初職員の中には、障害のある人と同じ職場で働くことに戸惑いや躊躇もあり、患者さんの中にも障害者との応対に困惑する方もおられましたが、そうした不安感を払拭し、障害者理解を進め、障害者雇用を推進・定着していくために様々な取り組みを行っています。

具体的な取組内容

＊仕事内容

各病棟での清掃や環境整備、ベッドメイク、タオル折り、トレイ消毒、新生児の手袋洋裁、眼球保護帯づくり、パソコンへのデータ入力など病院内の様々な部署で貢献してもらっています。

＊特別支援学校と病院を結ぶ！奈良県立医科大学附属病院アート展の開催

多くの障害者の方たちの出身校である特別支援学校と連携し、在校生や卒業生の作品を病院内に展示するアート展を平成28年度から開催しています。

＊医療・就労・アートをつなぐフォーラム

「医療現場で活躍する特別支援学校生徒、卒業生たち」をテーマに、広く県民の方々に障害者雇用を理解していただく機会となるよう、病院内での仕事の取組・体験の発表、パネルディスカッションなどを行いました。

アート展オープニングセレモニー
（平成30年8月27日）

障害者雇用の定着と推進

本学で就労している障害者の皆さんは、その働きぶりが評価され、多くの部署で業務を任されている貴重な戦力です。実際に患者さんから感謝や励ましの言葉をいただくことも多いです。

地域に貢献する役割を担っている本学としては、障害者理解の輪が広がり、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会の実現を目指して、さらに取り組みを進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

附属病院の各部署で活躍する障害者の皆さん

2018年奈良県立医科大学大学祭　白橿生祭
「Nice to Meet U！」

10/27㊏・28㊐　両日とも9：00～18：00

奈良医大を初めて訪れる方を「初めまして！」という気持ちで歓迎するという思いを込めて開催いたします。

①シンポジウム

10/27㊏　13:45～　水上颯さん
　　15:15～16:45　佐藤健寿氏
10/28㊐　13:00～14:00　吉田たかよし先生
場　所　本学大講堂

吉田たかよし先生

佐藤健寿氏

②よしもとお笑いライブ！

出演者　笑い飯、天竺鼠、てんしとあくま
10/28㊐　14:00～15:00
場　所　屋外特設ステージ

笑い飯

③医学展示企画

「医療を身近に感じ、自分や周囲の健康に関心を持ってもらう」ことをテーマにした企画が盛りだくさんです！診察体験、BLS体験、医療器具体験、予防医学講座　etc…

10/27㊏・28㊐　両日とも 9:00～18:00　場所　体育館

天竺鼠

④なら・かしはらグルメフェア

出店店舗　炙り鯛だしラーメン・つけ麺サクラ・Mokomoko・はないちもんめ・薬膳カレー・弘済会・ワーキングサポート
10/27㊏・28㊐　両日とも 9:00～18:00
場　所　本学教養教育棟前駐輪場

てんしとあくま

⑤ステージ企画

バンドライブ、クイズ大会、ビンゴ大会、ダンスステージ等企画多数
10/27㊏・28㊐　両日とも 9:00～18:00
場　所　屋外特設ステージ

⑥奈良県ゆるキャラ大集合@奈良医大

奈良県内のゆるキャラを奈良医大に招待して、奈良医大のゆるキャラ・しょうとくた医師くんと一緒に学祭を盛り上げます！

10/27㊏　12:00～13:00　場所　屋外特設ステージ

しょうとくた医師くん

「奈良医大キャンパスだより」の内容に関する問い合わせやご意見等ございましたら、右記までご連絡ください。

公立大学法人奈良県立医科大学　法人企画部　キャンパス整備推進室
〒634-8521　奈良県橿原市四条町 840
TEL　0744-22-3051（内線 2801, 2804）
Mail　kihonkoso@naramed-u.ac.jp